

2024年度 町田市立南成瀬中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標 共生 自立 貢献	学校経営の重点 (1)教育目標の達成とコミュニティスクールの充実(2)人権意識の高揚を図る指導(3)教員の授業力向上と生徒の学力向上(4)多様性を肯定的に受容できる生徒の育成(5)生徒が主体となった体力・健康づくり(6)基本的生活習慣を身に付けさせる(7)なんなる国際理解プログラムを軸としたキャリア教育(8)特別支援教育の推進(9)南第二小学校・南成瀬小学校との連携
○目指す学校像・………偏見、差別、いじめ、暴力がなく、優しく思いやりにあふれた学校(共生) 生徒一人一人が自ら歩みを進めていく力を養う学校(自立) 多くの人と喜びや達成感を共有し、よりよい社会を築いていく学校(貢献) ○目指す児童・生徒像……自他の生命を尊重し、多様な価値観を認められる生徒(共生) 自ら考え判断し、たくましく行動できる生徒(自立) 社会性を身に付け、周囲の人と協働できる生徒(貢献) ○目指す教師像・………生徒の人権を尊重し、生徒に寄り添い、生徒の自己実現を支える教師(共生) 自身の指導力を伸ばすために、向上心をもち研鑽を積み重ねる教師(自立) 豊かな人間性をもち、すべての教育活動で連携・協力できる教師(貢献)	重点目標の成果と課題【成果】教育目標を刷新した一年目であったが、あらゆる教育活動のねらいを教育目標の達成に結び付けるように周知徹底し、全校に教育目標を浸透させることができた。体力・健康づくりについて生徒が主体となった取組を生徒会活動を中心に実践することができた。校則改正や基本的生活習慣の面でも生徒が主体となった活動を展開できた。町田市特別支援教育推進モデル校の研究発表を行い、特別支援教室と通常の学級との連携を図ることができた。【課題】人権意識の高揚を図る指導においては、特に情報モラルの向上の面で質・量ともにさらに推進していく必要がある。国際理解プログラムについては学校行事や総合的な学習の時間を中心とした教育活動の中での位置づけを再構築する必要がある。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○ %	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	保護者や地域から信頼される学校づくり	本校の教育方針・教育活動を保護者や地域の方々にご理解いただくために、学校公開や保護者会等を設定し、多くの方に学校の様子を参観していただく。	4 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年12回以上 3 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年9回以上 2 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年6回以上 1 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年6回未満	14回	A	A 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 60%未満	100	A	・本校の教育活動にご理解をいただくために、学校公開や保護者会を計画的に実施することができた。特に部活動地域連携への新しい取組については、保護者や地域の方からの賛同を得られたと考えている。	・学校公開や保護者会の時期や回数を検討し、保護者の方がより参観しやすい日程を設定するようにする。	・教育方針、教育活動等を積極的に保護者、地域へ発信する機会を設けることができた。	A
			学校の教育活動をより身近に捉えていただくために、学校・保護者間連絡システムや学校ホームページ等を活用し、学校の様子を積極的に情報発信する。	4 学校ホームページの更新が週3回以上 3 学校ホームページの更新が週2回以上 2 学校ホームページの更新が週1回以上 1 学校ホームページの更新が週1回未満	4回	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 60%未満	96	A	・教育活動の情報発信を年間を通じて積極的に行うことができた。できるだけ身近な話題を高い頻度で発信した。	・ホームページ等の更新作業を校務分掌の担当業務に位置付け、担当者の責任分担を明確にする。	・キャリア教育などで地域人材を活用した授業が効果的に行われた。授業が効果的に行われてきた。	
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	生徒の学習意欲の向上	地域人材を積極的に活用し、本校の教育活動に地域の方々が直接関わる機会を設けて学校と地域が協働して子どもを育成する環境を整える。	4 地域人材を活用した授業の実施が各学級年9回以上 3 地域人材を活用した授業の実施が各学級年6回以上 2 地域人材を活用した授業の実施が各学級年3回以上 1 地域人材を活用した授業の実施が各学級年3回未満	12回	A	A 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 60%未満	80	A	・地域人材の授業への活用への意識はかなり高まり、多くのゲストを迎えることができた。	・地域人材の活用をさらに積極的にいき、進路指導やキャリア教育の推進に生かす。	・ボランティア精神は実際に生徒がボランティアに参加しないや育たない。	B
			地域ボランティア活動や地域課題についての学習を通して、社会の構成員として地域に主体的に参画し、貢献しようとする生徒を育成する。	4 地域ボランティアへの参加が全校生徒の6割以上 3 地域ボランティアへの参加が全校生徒の4割以上 2 地域ボランティアへの参加が全校生徒の2割以上 1 地域ボランティアへの参加が全校生徒の2割未満	69%	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 60%未満	82	A	・地域ボランティア活動に生徒を積極的に参加させ、地域に貢献していくこと人材を育成することができた。	・地域ボランティア活動に生徒を積極的に参加させ、地域に貢献していくこと人材を育成することができた。	・地域ボランティア活動に生徒を積極的に参加させ、地域に貢献していくこと人材を育成することができた。	
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	円滑な社会生活に向けての人権尊重の理念に基づいた指導	学習課題やねらいの提示、振り返りとともに、「価値ある対話の共有」を授業場面で意図的に設定し、自ら学び、協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。	4 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の9割以上 3 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の8割以上 2 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の7割以上 1 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の7割未満	88%	B	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 60%未満	72	B	・学習課題のねらいの提示や振り返り等の設定は、教員間で意識付けが定着しつつある。学習内容により対話的な授業の導入が比較的に行いにくい単元等がある。	・教科の指導力を高める校内研修を行い、単元の系統性への理解を深め、対話的な授業展開を増やすための研究を推進する。	・授業力向上に向けた取組は次年度さらに推進する必要がある。	A
			毎朝の読書活動を通して読書習慣を身に付けさせるとともに、書評についての意見交換を行い、読書に親しむ態度を育成する。	4 朝読書の実施が年150回以上 3 朝読書の実施が年130回以上 2 朝読書の実施が年110回以上 1 朝読書の実施が年110回未満	160回	A	A 学校評価アンケート「イ」③「読書」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」③「読書」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」③「読書」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「イ」③「読書」肯定的評価 60%未満	49	D	・朝読書は十分な時間を確保することができたが、質や内容の面で不足している部分がある。	・図書委員会の活動をより活発化させるとともに、朝読書をさらに楽しく取り組めるような全校的な活動を工夫する。家庭と連携した取組の導入を検討する。	・生徒は朝読書にしっかりと取り組んではいるがその様子は保護者からは見えにくいため成果指標(保護者アンケートの結果)が悪いと考えられる。	
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	ICTの活用による生徒一人一人の学力の向上	タブレット端末を活用し、探究的、対話的、協働的な学習による生徒の「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を育む。	4 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年150日以上 3 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年130日以上 2 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年110日以上 1 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年110日未満	162日	A	A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 60%未満	78	B	・タブレット端末の活用は進んでいるが、使用頻度は教科によって偏りがある。	・ICT支援員を活用して、タブレット端末を使用したさまざまな学習方法を教員が習得し、教科指導に生かす。	・図書室のさらなる活用推進等の工夫をしなくてはならないこと。	A
			クラウド型学習支援コンテンツ、学習者用デジタル教科書等の活用の推進を通して、家庭と協力して知識・技能の習得に向けた学習内容の理解を深めさせる。	4 クラウド型学習支援コンテンツの進捗状況良好が全校生徒の6割以上 3 クラウド型学習支援コンテンツの進捗状況良好が全校生徒の5割以上 2 クラウド型学習支援コンテンツの進捗状況良好が全校生徒の4割以上 1 クラウド型学習支援コンテンツの進捗状況良好が全校生徒の4割未満	72%	A	A 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 60%未満	65	C	・クラウド型学習支援コンテンツの課題の出題・取組状況を保護者と共有する仕組みを検討する。	・クラウド型学習支援コンテンツの課題の出題・取組状況を保護者と共有する仕組みを検討する。	・ICTの活用については使用効果の分析を丁寧に行いながら活用の工夫を推進していくべきである。	
健康な体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導	いじめは絶対に許さないという土壌をつくるため、朝会、学年集会、学級活動等の機会だけでなく日常のあらゆる場面で生徒に働きかけを行う。	4 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年5回以上 3 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年4回以上 2 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年3回以上 1 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年3回未満	4回	B	A 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 60%未満	80	A	・いじめ防止については、学校生活のあらゆる場面でタイミングを捉えて指導を重ねている。いじめ防止をメニュー化した授業をもう少し取り組めればよかった。	・いじめ防止については、早期発見、早期対応が重要なので、明るく前向きな学級の雰囲気醸成して、仲間を信頼しあえる人間関係の構築を指導する。	・保護者アンケートからは「人権」、「ネットマナー」、「規範意識」が生徒に十分身に付いていると評価されているとわかる。次年度はこれらをテーマにした授業の回数を増やせるとよい。	A
			日常的な指導を通して公共の場でのマナーを身に付けさせるとともに、道德教育やセーフティ教室の機会に情報モラルについての意識を高めさせる。	4 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年5回以上 3 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年4回以上 2 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年3回以上 1 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年3回未満	3回	C	A 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 60%未満	79	B	・情報モラルは重要なテーマだが、十分な授業回数を確保できなかった。	・情報の取り扱いの危険性について身近な例を多く生徒に提示するとともに、情報モラルに関する内容を道德、技術以外の教科でも積極的に取り入れ、教科横断的な学習を行う。	・多くの生徒が穏やかに学校生活を送っており、他者を尊重する態度が身に付いていると考えられる。	
その他		体力向上に向けた取組の推進	規範意識を身に付けさせることを通して公共心を高める。また、生徒の成長を積極的に認め励ましていくことを通して自尊感情を高める。	4 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年5回以上 3 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年4回以上 2 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年3回以上 1 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年3回未満	4回	B	A 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 60%未満	93	A	・ほとんどの生徒が規範意識をもって学校生活を送れているが、一部にルールを守れない状況が発生した。	・体育祭や合唱コンクール、委員会活動等を中心に、上級生が下級生の模範となって活動する場面が多くなされた。	・「NANNARU PRIDE」をさらに浸透させていく。	A
			生徒主体の活動場面を多く作るとともに、学校行事で上級生が下級生に模範を示す機会を意図的に設け、望ましい人間関係の形成や集団の在り方を考えさせる。	4 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年5回以上 3 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年4回以上 2 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年3回以上 1 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年3回未満	10回	A	A 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 60%未満	87	A	・上級生が下級生の手本になることを学校全体のスローガン「NANNARU PRIDE」により浸透させていく。	・上級生が下級生の手本になることを学校全体のスローガン「NANNARU PRIDE」により浸透させていく。	・上級生が下級生の手本になることを学校全体のスローガン「NANNARU PRIDE」により浸透させていく。	
その他		信頼して子どもを任せられる安全・安心な学校	学校行事、昼休みの外遊び、部活動等、教育活動全体を通して運動に親しませる。特に体育祭に向けた取組の中で、集団で行う運動の楽しさを味わわせる。	4 運動に親しませる取組の実施が年15日以上 3 運動に親しませる取組の実施が年12日以上 2 運動に親しませる取組の実施が年9日以上 1 運動に親しませる取組の実施が年9日未満	20日	A	A 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 60%未満	75	B	・体育祭に向けての取組や、体育のダンスの授業を中心に、生徒が主体的に運動を行う様子が多く見られるようになった。委員会活動でも全校生徒に運動を促す活動を積極的にに行った。	・伝統の学校行事、単元を工夫した体育の授業を継続し、運動に楽しみなが親しんでいくことをさらに定着させていく。	・体力向上に向けた取組は学校としてしっかり行われてきたと考えられる。	A
			保健体育の授業を中心に体づくり運動を継続的にいき、走る・投げる・跳ぶ力や柔軟性等をバランスよく身に付けさせる。	4 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の9割以上 3 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の8割以上 2 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の7割以上 1 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の7割未満	95%	A	A 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 60%以上 B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 50%以上 C 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 40%以上 D 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 40%未満	44	C	・体育の授業での体づくり運動は継続して行うことができている。しかし、体力調査での成果には表れてるとはいえない。	・体育科を中心に体力調査の結果を分析し、弱い部分の運動を強調した授業展開の工夫を行う。	・全国体力・運動能力調査結果が芳しくなかったことについては、データの詳細な分析が必要である。	
その他		信頼して子どもを任せられる安全・安心な学校	・あいさつの励行、時間厳守、適切な言葉遣い、整えられた身だしなみを生活指導の重点として徹底し、生徒の基本的な生活習慣を確立させる。	4 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年5回以上 3 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年4回以上 2 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年3回以上 1 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年3回未満	5回	A	A 学校評価アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 60%未満	91	A	・多くの生徒はあいさつや時間厳守など、学校生活の中で基本的な生活習慣を意識して行動することができている。	・委員会活動等により、生徒が基本的な生活習慣を身に付ける大切さへの意識を自ら高めていける活動を継続して行う。	・運動は幼い時からの積み重ねが大切であるので、小学校と連携して対策を考える必要がある。	A
			臨場感のある避難訓練や、地震、浸水及び土砂災害等の場面を想定した引き渡し訓練、集団下校訓練を実施し、様々な非常事態の際の対応力を身に付けさせる。	4 臨場感のある避難訓練の実施が年5回以上 3 臨場感のある避難訓練の実施が年4回以上 2 臨場感のある避難訓練の実施が年3回以上 1 臨場感のある避難訓練の実施が年3回未満	6回	A	A 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%未満	92	A	・さまざまな場面を想定した避難訓練を計画的に行うことができた。	・避難訓練を行う時間帯や設定の状況に変化をもたせ、より臨場感をもたせるとともに、地域防災の拠点として地域と連携した防災への意識を高めていく。	・実践を意識した避難訓練が実施されてきた。	

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)

取組指標平均 3.5以上	⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満	⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均 2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準

成果指標平均 80%以上⇒評価A
成果指標平均 70%以上⇒評価B
成果指標平均 55%以上⇒評価C
成果指標平均 55%未満⇒評価D

学校関係者評価の評価基準例

A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善
※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。